

遺族からの投稿

ミャンマー慰霊友好親善訪問に参加して

広島市南区 八林 脩

広島県・広島市遺族会のお世話により慰霊友好親善訪問する事が出来、遺児として貴重な体験をさせて頂き大変感謝しております。今度の日程は次の様に行われました。

*二〇〇五年十二月一日

午後一時から東京九段会館で説明会の後団結式があり、後靖国神社参拝をすませ夕食会（壮行会）が行われる。慰霊友好親善訪問団員八〇名、戦跡慰霊巡拝団員一九名、各団長添乗員を含め総勢一一一名でA・B・C・D・E班に分かれ、私はD班で二二名の遺児と一緒に巡拝。

*二〇〇五年十二月二日

成田空港よりバンコク経由でミャンマーの首都ヤンゴンに到着。夜七時過ぎホテルに着く。岡山の遺児の浦上さんと同室。

*二〇〇五年十二月三日

ヤンゴン空港から国内線でアキャブに昼過ぎに到着。ホテル近くのシワトウエイ海岸で五遺児（E班一名）の慰霊追悼を行う。

*二〇〇五年十二月四日

午前中日本遺族会が創ったバンドウダトウ小学校を慰問し、持参したノートや鉛筆を届け午後の国内線でヤンゴンに戻る。

*二〇〇五年十二月五日

早朝五時ホテル出発、国内線でマンダレー空港へ。そこからチャーター便でカレミヨー空港へ行きトラックを改造した専用バスでカレワ迄ガタガタ道を行く。ここでは一五名の遺児の追悼式が行われ、同室の浦上さんも追悼され、夜遅くホテルに帰る。

*二〇〇五年十二月六日

カレミヨーからマンダレーに昼過ぎに着き、サガインヒル日本人墓地で私と平田さんの二人の遺児で追悼式が行われる。マンダレー市内で花や果物等を買って、日本から持参したお酒も供える。

*二〇〇五年十二月七日

午前中マンダレー周辺の日本人墓地の慰霊巡拝をし、午後ヤンゴンへ向かう。

*二〇〇五年十二月八日



ヤンゴンの日本人墓地で現地日本大使

官の出席の上、五班合同の全戦没者の追悼式が行われる。その後ホテルで大使官ミャンマー教育者関係の方々との懇親会が開かれる。

後夜空路バンコクへ向かう。

*二〇〇五年十二月九日

バンコク市内からバスでカンチャナブリの日本人墓地等の慰霊巡拝をする。

*二〇〇五年十二月十日

昼前にバンコク空港より成田空港へ。全員無事帰国、解団式を済ませ解散する。

今回の慰霊友好親善訪問に際して、日本遺族会の方々のおかげで、父の所属部隊や当時の戦地の行動記録等、父の戦死したであろう場所も知ることが出来ました。父はサガイン州のセジで戦死した様で、サガインヒル日本人墓地での巡拝となりました。ここでは私達二人だけの追悼式でしたが、二一名全員で祭壇を設営し、それぞれ皆日本から持参したお酒やタバコ・お菓子等供えてくださり、盛大に追悼式を行うことが出来ました。

この大戦では、戦争末期には食糧も無く追撃する敵の爆撃を避けつつ、体力消耗の中疫病や病魔と戦いながらジャングルをさまよった事など、本で読んだ事が頭の中に浮かびました。追悼の後サガインヒル日本人墓地は陽が落ち始め、夕陽がともきれいでした。そこで私達全員で歌った「ふるさと」は皆涙がこみ上げ止まりませんでした。

現在ミャンマーは軍事政権下ですが、ミャンマーの大戦（ビルマ）で遺児となられた人達に一人でも多くこの様な体験

をさせてあげて欲しいと心より思います。また、ミャンマーの人達は日本人に対してとても温かく接してくれ、安心して行く事が出来ます。

機会があればまた行きたいと思えます。本当にありがとうございます。

トラック、パラオ諸島慰霊の旅

福山市駅家町 小泉 正

この度十月十三日より十月十九日間七泊八日の日程でトラック、パラオ諸島慰霊友好親善訪問団に参加させて頂き、私の七十年の人生の中で一番心に残る旅でした。

これもお互いに戦後の苦しい時代母を助けて生活した同志の方々ばかりの旅行で、お互いに助け合い慰め合い、私達十名は、パラオ諸島を廻らさせて頂きました。

島々の所々又海上では、船の上にて、それぞれ、お父様の亡くなられた場所にて、祭壇を設け、慰霊祭をとり行わさせて頂きました。

その都度、亡き父に追悼文を読ませて頂き、お互いに読まれる追悼文は、父を思い、母を助け、兄弟、姉妹を労るお言葉は、口には言い表す事の出来ない文章で、口より語られるお声は、森羅万象一切が感動し、同情の涙をしてくれているようでした。

島々に残る船、戦車の残がいを見ると昔を思い出し、無い所では美しい島に、又島々の人々の方々も人なつこく、ペリリユー島小学校訪問では、日本語で「もしもかめよ、かめさんよ」の童謡を歌